スタンフォード大学連携科目 令和3年度 開講記録

※開催報告は、各回のゲストスピーカーへのインタビューを担当したグループ(受講生)が書いています。

第1回 4月10日(土)

【オリエンテーション】

スタンフォード小史&シリコンバレーのエコシステム

講師:ヤング吉原麻里子

第2回 4月24日(土)

米国に進出する際の法的留意点と現地化成功の秘訣 ~企業文化と弁護士の

効果的な活用法を添えて~ゲストスピーカー:萬タシャ氏・石井隼平氏

サンフランシスコに拠点を置く国際法律事務所で、企業法務、国際税務、M&A/戦略的提携、ライセンシング、国際商取引、雇用法において日本語と英語で法務サービスを提供している Yorozu Law Group の代表弁護士であり、日系企業の外部顧問を多数務める萬タシャ弁護士、YKK AP 株式会社法務部国際法務室の社内弁護士をされている石井隼平弁護士、お 2 人をゲストスピーカーとして迎え講義を行っていただきました。

私たちの担当モジュールはゲストスピーカーが参加される1回目の講義であり、チームメンバーの中で SHCPE の講義がどのような流れで行われるのか、イメージができていませんでした。

講義の前週、ヤング先生・石井弁護士とチームメンバーで事前打ち合わせを行う機会をオンライン上で設けていただくことができ、その場で石井弁護士がされている仕事の話をお聞きするとともに、それ以上に石井さんの人となりをお聞きして理解を深めていきました。SHCPE オリエンテーションでも、SHCPE インタビューは『半構造化インタビュー』であり、相手の

話の背後にある感情や状況などを探っていく方法を紹介されていたので、その部分を意識して 行いました。

講義当日は、ゲストスピーカーお2人のご紹介をさせていただき、その後チーム4名で萬弁護士、石井弁護士にインタビューを行いました。講義の事前準備として、受講生はお2人に関する資料を読み、また受講生がいくつかのテーマに対してディスカッションを行っていたため、当日のインタビューは事前準備の理解をさらに深めることができればと思い行いました。様々な質問をする中で、チームメンバーの質問に対して、萬弁護士が思ってもみない質問だったといわれた点は、この講義がゲストスピーカー自身も考えることのなかった、自分自身について気づくきっかけになったのではないかと思っています。

後半部分は事前準備で行っていたディスカッションテーマの中で、特に学生間で盛り上がった内容について深堀を行うよう組み立てをしました。実際は予定通りにはうまくはいきませんでしたが、その後の講義で生かすべき改善点など多く見つけることはできたと思います。

SHCPE の学びは、情報の吸収ではなく、知識の構築である。初めてのモジュールを担当して、ゲストスピーカー、講師の皆様、受講生のみんな、参加者全員で生み出した知識の構築を体験することができました。

第3回 5月8日(土)

ベンチャーをめぐる資金調達の仕組み

ゲストスピーカー:宮坂征治氏

Module3 では、ベンチャーキャピタル SPARX Group の米国子会社において、President であり CEO をされておられる宮坂征治さんをゲストスピーカーとしてお迎えし、「ベンチャーをめぐる資金調達の仕組み」についてレクチャーいただいくとともに、あらかじめ設定したテーマに基づいてグループディスカッションを行った。

授業は3部で構成。

1部では、我々Module 3ホストメンバーがゲストスピーカーへのインタビューを実施。①「現在」にいる宮坂さんは未来をどのように創造したいか? ②「過去」から見た宮坂さんの現在は、どのようなイベントが発生し、どのように決断することで形成されたのか? ③ 現在の宮坂さんが投資判断を行ううえで大切にしている「ヒト」や「チーム」に求めることの3

点を、宮坂さんのご趣味である乗馬、棚田の話題も絡めながらお尋ねし、人となりを深く知る ことから始まりまった。

2部として、宮坂さんからの講義を賜り、ベンチャーキャピタリストから見たシリコンバレー、そこに育まれたエコシステム、起業家とベンチャーキャピタリストの関わり方(仕組み、プロセス)、そして具体的な事例について解説頂いた。

3部は、受講生を6グループに分け、「広島県において起業活動を活性化させるための課題と打ち手」についてグループディスカッションを実施した。このテーマは、Module1において議論になった「広島にイノベーションを起こすための『場、ヒト、仕掛け』は何か?」という問いに対しさらに深堀して考えるため、「広島県、日本、そして米国との違い」を意識して課題とその解決方法に対し仮説を立てようというコンセプトで行った。また、ベンチャーキャピタリストに対して「提案」を行うシチュエーションを想定し、各チームからディスカンションの内容についてプレゼンを行っていただくこととした。

このディスカッションで得られた各チーム共通の認識は、「平和という点において、『広島』は世界レベルにおける唯一無二のブランドであり、平和はマーケティングの対象となりうる」というものであった。平和を「活かした」起業を行うために、高等教育(大学やビジネススクール)の学びは不可欠であり、SHCPEや HBMS での様な「知識を共に構築し、構築した、あるいは学んだ知識を身につけ『身体知』にする」場の影響が、広島県の企業活動を活性化させるのではないか?という仮説を受講者全員で構築することができた。

また、SHCPEではゲストスピーカーとの事前のディスカッションやインタビューを行うことが特徴である。「ゲストスピーカーの人となりを深く知る」というミッションを成功させるために、状況の変化に対応し、新たな気付きに基づく新たな会話の接点を模索していく作業を事前に繰り返すことができる。この作業を通じて、マネジメントリーダとして必要な「現状の認識、仮説の構築、行動」という PDS サイクルを身につけることができたと考える。

最後に、宮坂さんには事前ディスカッションから Module 終了後においても、我々との対話を積極的に行っていただき、ディスカッショントピックについても共に思考し、構築していただいた。この場を借りて、改めて感謝申し上げる次第です。

第 4 回 5 月 22 日 (土)

事例紹介:ソフトウェア スタートアップの企業戦略

ゲストスピーカー:冨田龍起氏

Module4 では、VJEN(シリコンバレー日本人起業家ネットワーク)の代表を務めながらアントレプレナーとしても活躍する冨田龍起さんをゲストスピーカーとしてお迎えし、「ソフトウェア スタートアップの起業戦略」についてレクチャーいただいくとともに、あらかじめ設定したテーマに基づいてグループディスカッションを行った。我々チームは、ゲストの経営力のみならず人間力にフォーカスした対話重視の時間を心掛けた。

授業は3部で構成した。

1部では、我々Module 4 ホストメンバーがゲストスピーカーへのインタビューを実施。
①Opera 社での経験(3年間の経験)、②Vivaldi 社創設(Opera 創業者との共同)、③現在の 冨田さんが大切にしていること等を時系列的にお尋ねし、人となりを深く知ることから始まり まった。

2部として、冨田さんから「ソフトウェア スタートアップの起業戦略」の講義を賜った。冨田さんは、講義の中で「ピボット・ピラミッド」という考え方を示された。「ピボット・ピラミッド」とは、ピボットする対象には階層があり、下を変えると、その上に載っているもの全体がガラガラと崩れ落ちて、結局全てを変えなくてはいけなくなることから、この階層性を意識しながら戦略やアイデアと市場のニーズを擦り合わせていくことが重要と述べられた。

3部は、受講生を6グループに分け、「①富田先生から学んだことベスト3をクラスで対話しまとめてみよう。」「②グッド・クエスチョンを1つ考えて富田先生と対話しよう。」についてグループディスカッションを実施した。冨田さんは Vivaldi や Orbweb といったソフトウェアの創業者であったが、現在は、ローレンスバークレー国立研究所において、大気中の CO2を吸収固定するための技術と事業開発に従事しておられる。講義のインタビューの中で、「日本政府や電力会社は CO2 排出量が多い。これまでおかしいなと思っていた。気候変動によって色んな生態系が壊れている。技術的な解決がない限り無理だと思った。会社を売却して時間的な余裕があったので、自分の興味に任せて調べて、次の世代に向けて解決に向けた方向性を見

つけている。技術者のはしくれとして自分として何かできることがあるのではないか。」と今 を生きる技術者としての使命感を力強く述べられたのが印象的であった。

冨田さんには事前ディスカッションから、我々との対話を積極的に行っていただき、多くの 学びを頂いた。この場を借りて、改めて感謝申し上げます。

第5回 6月5日(土)

予防医療とヘルスケアイノベーション

ゲストスピーカー:池野文昭氏

①本講義のグループディスカッションでは、医療介護業といったヘルスケアではなく、健康に着目し、ウェルネスの視点で、未病段階にある架空の人物をペルソナに設定し、「健康的な生活へと行動の変容を起こすために必要なシステム」テーマで、新たなビジネスや仕組みについて検討した。ウェルネス分野は、市場規模も大きく、誰もが健康で生き続けたいと願う中、欲との闘いに敗れ、不健康な行動をとってしまう悪循環を断ち切るため、どのような仕組みが必要なのか、指導教員も含め全員でディスカッションを行った。改めて健康とは何か、どのような仕組みがあれば行動の変容を起こせるのかといった奥深い議論が展開されていたと考えている。池野氏の講評では、「行動の変容は Buddy(相棒)の存在が重要である」と大きなヒントを得ることができ、ウェルネス分野の可能性を感じることができた。

②モジュールを担当し当日の授業をファシリテーションする事について、授業を受けるにあたっての予習以上の事前学習になったと感じている。池野氏においては事前学習にて TED トークや関係資料で池野氏の人柄やスタンフォードへ渡った経緯を伺うことができた。しかし、モジュール担当として池野氏から新たな学びとなる要素を引き出すとなった時にチームでの事前学習がより学びを深めたのではないかと思う。

今回のチームにおいてウェルネス事業において如何に健康意識を引上げ事業へ結びつけるかを 検討していた。そこで池野氏から「人は分かっていてもなかなか変われない」と話されウェル ネス事業の難しさを聞きながらも健康に対するブームを起こし事業展開した例などを紹介して いただいた。また、起業家として何を成し遂げたいのかといった点で「孫やひ孫の代でおじい ちゃんが何をしていたのか話題に出る事」と話された事において壮大さを感じることができた。

③まず、池野氏というアントレプレナーと触れ合うことで、その行動力や知識の広さを知ることができた。彼のやりたいことへの信念というものが根底にあってそれを求め続けている姿勢というものがアントレプレナーの要素の1つではないかと実感した。

モジュールを担当することで、どのように授業をコーディネートするか、どうすればより学べるかということを考えて実行し試すことができた。そこでは、私自身として新しいことに挑戦できなかったこと、その提案や発想がでてこなかったことが反省点である。今までの形式につられてしまいがちで、場に合わせてしまう癖があるので、もし次の機会があれば、積極性や担当する分野での知識というものを改めて持って挑戦したいと考えている。

第 6 回 6 月 19 日 (土)

グローバル社会における多様性とインクルージョン

<u>ゲスト</u>スピーカー:中澤里華氏、JACKIE F. STEELE 氏

Module6 では、中澤里華さんとスティール若希さんのお二人をゲストスピーカーに迎え、多様性とインクルージョンをテーマに、日本とアメリカの企業文化などの違いに触れながら、お二人の講義と講義後のクラスディスカッションの大きく二部構成で進行された。

中澤里華さんは、日独米トライリンガルとして日本に生まれ育ち、プリンストン大学進学を機に渡米されて以来、NVIDIA・ソニーなどフォーチュン 500 企業やシリコンバレーのスタートアップで、戦略・ビジネス展開・マーケティングを 20 年以上にわたって経験、ハイテク企業の女性の活躍促進に力を注ぎ、企業の理事メンバーにおけるジェンダーバランスを推進するBoard Seat Meet を設立された経歴を持たれている。現在はフリーランスで技術アドバイザーやビジネス戦略のコンサルティングを行なわれている。

スティール若希さんは、1997年に来日、現在 enjoi の創業者・CEO としてご活躍中でありながら、日・英・仏に堪能な政治学教授、出版物の著者であり、長年日本で研究者・政治学者として教鞭を執られている。2008年、2009年度には、多様な女性の平等を提言するカナダの市民団体の代表として国連女性の地位委員会に参画された。また、国内においては2015年に国

連の災害リスク軽減分野での政策提言において、男女共同と災害復興ネットワークの多様性顧問を務められた。

まず、前半の講義部分、スティール若希さんの講義では、enjoi という社名の由来の話から、日本的な縁や絆を多様性と組み合わせた考え方や、日本の男女、世代間、都会と田舎の価値観の GAP、日本の伝統も多様性と捉える考え方など、20 年に渡り日本で生活されたスティール若希さんならではの多様性についてのお話を伺うことが出来た。また専門分野である社会的政治的な面からの多様性とインクルージョン(D&I)については、民主主義論の基礎、多様性=多元主義、多事争論などに触れながら解説が行われた。

次に、中澤里華さんの講義ではビジネスにおける多様性について、カリフォルニアにおける 企業での女性取締役数などを事例に、ビジネスや企業における多様性の重要性やイノベーショ ンとの関係性について解説いただいた。

そして、後半のクラスディスカッション部分では、テーマを「日本で D & I を定着させるための課題とあるべき姿とは?または個人として取り組んでいけることは?」とし、全員での意見発表、意見交換の時間とした。

様々な立場やバックボーンを持つ人たちが、多様性についてそれぞれの考えを述べること、 お互いに理解することは、まず自分自身を知り認めること、相手を認めることに繋がり、多様 性とインクルージョンという Module6 のテーマに沿った有意義な時間となった。

第7回 7月3日(土)

シリコンバレー、起業家からのメッセージ

ゲストスピーカー:小野里晃氏

【事前準備】

事前準備として、講義の構成検討やゲストスピーカーへのインタビューなど3回行った。第1回は、Module7担当メンバー全員で過去のModuleを参考に進め方や時間配分、役割分担を決定した。また、当日のグループワークのテーマとして「ゲストの行動力にフォーカス!」を設定し、起業を成功させ続けている小野里さんの行動の源=原動力に迫ることを計画した。第

2回は、小野里さんへのインタビューを実施した。プロフィールの確認やこれまでの経験談、 今後のビジネス展開から最近プライベートで興味のある分野まで、ヒアリング内容は多岐に渡 った。そのなかでフォーカスする内容を絞り込み、講師とともに深堀した。第3回は、担当メ ンバーでリハーサルを行い、スムーズなスライド共有やナレーション、各人の役割分担を確認 した後、通信面など不測の事態が起きた際の対応についても議論した。

【Module 7 当日】

前半に講師の紹介や座学を実施した。後半は3グループに分かれ、①チャンスのつかみ方、 ②講師の行動力の源泉についてディスカッションを行った後、全体で共有し講師とともに深堀 した。日本とアメリカという目に見える違いだけではなく、ビジネスを構想する際の「常識を 疑う」「妄想からスタートする」や、ビジネスを実現していく過程での「モメンタム(勢いづ く瞬間)」や「人とのかかわり方(ネットワーキング)」など、講師の生の声(暗黙知)を全 体で共有できたことは、大きな学びとなった。

講義の途中回線が途切れ、講師と 10 分程度断線したが、事前準備の通り柔軟に進行できたと思われる。

【全体をとおしてのまとめ】

「事前準備の段階で、講師に無理を聞いて頂き、担当メンバーとのミーティングに参加した 頂いたことが幸運であった。その結果、ある程度事前情報を得た上で本番を迎えられたこと は、当日の運営において大きなアドバンテージとなった|

「Zoom を介してでありながら、不思議と阿吽の呼吸でやり取りすることができた。講義を受ける側から、コーディネートする側に立つことで、講義やディスカッションにおける学びの角度が変わった」

「学びにおける主体性の重要性を改めて実感する機会となった。また、コロナ禍でクラスメイトと交流する機会が限られているなかで、担当メンバーの絆を深めることができ、とても良い機会となった|

「講師はやりたいことをやりたいタイプの起業家である。いくつも起業を成功させているが、それ以上に失敗していることに講師があらためて気がついたのは、何と SHCPE の講師を

行うようになってからだという。講師は、それを鈍感力と言って笑ったが、面白いことを追求 する難しさを学ぶ機会となった」

最後に、講師(小野里晃先生)には、事前ディスカッションから Module 終了後まで、私たちとの対話を積極的に行って頂いた。インタビューの内容からディスカッショントピックにいたるまで、ともに思考し、構築して頂いた。この場を借りて、改めて感謝申し上げる次第です。

第8回 7月17日(土)

【総括クラス】STEAM:21世期の人材育成

講師:ヤング吉原麻里子







第1回 第2回 第3回







第4回 第5回 第6回







第7回 第8回 受講者の様子